第 20 回福島問題研究会議事録(ダイジェスト版)

日時：平成 28 年 12 月 21 日（水）　14:30～17:10
場所：化学工学会応接室
出席者(敬称略)：小林、郷、鈴木、中尾、松井、松田、横堀、橋本(文責)

（１）前回議事録確認
特になし。

（２）化学工学会年会（2017.3.7)シンポジウム対応
１）化学工学会提言の SCENet 担当分について、
①当研究会としては、下記の 2 項目につき提案を担当することとなった。

3.5　サイト浄化システム

3.7　除染、廃炉、デブリ取り出しにおける安全リスク管理

②上記２項目についての提言案(各項目 A4 半ページ程度)を、小林、橋本が 12 月中に取りまとめ、次回の当研究会でレビューし、1 月 15 日までに化工学会（福島原発事故対策検討委員会）へ提出する。

なお、特に 3.7 に関し、原子力分野におけるリスク管理、安全管理の定義、規制、基準がどのようなものなのか、化学工業分野との比較相違等々につき意見交換があった。

③本提言は 3 月 7 日開催の学会春の年会シンポジウムで発表予定。その後、福島原発事故対策検討委員会は解散し、新しい研究会を立ち上げる予定とのこと。

２）「福島原発事故に対するシニアエンジニアの取り組み」（研究会からの発表）について
横堀氏作成の表記資料につき、説明があり内容につき意見交換を行った。
①発表者名は、横堀、中尾の 2 名に絞り、当研究会メンバー名は、資料内の報告内容に入れる。
②「原子力と化学工学の関わり」に関する説明に、AIChE の係わり等を加える。
③「もんじゅ」の説明スライドは省く。
④「現場を見る、聴く、・・・・」の説明中に、「廃炉プロジェクト遂行に係わり世界の叡智を集めると標榜されているが、その実現はどうなっているか？」との問いかけ文を入れる。
⑤公開されている ALPS の吸着データを用いて、当研究会内でシミュレーションを行ったが、の意図につき説明を加える。
⑥「化学工学への期待」の説明文の最後の言葉「・・・・いずれも化学工学とは無縁ではない」を「化学工学の深い関与が望まれる」とする。

（３）関連情報提供
鈴木氏から地元世論の動向に関し、「福島民報」の紹介があった。

（４）その他

①次回研究会日程：2017 年 1 月 13 日(金)15:00□　；化学工学会会議室(または応接室)

②見学会：株式会社アトックス(千葉県柏市)、見学日候補；2017 年 1 月 16□ 24 日

以上